

# 令和6年度中津市総合教育会議

日時：令和7年2月19日（水）14時

場所：3階大会議室

## 会 議 次 第

1. 開 会

2. 市長あいさつ

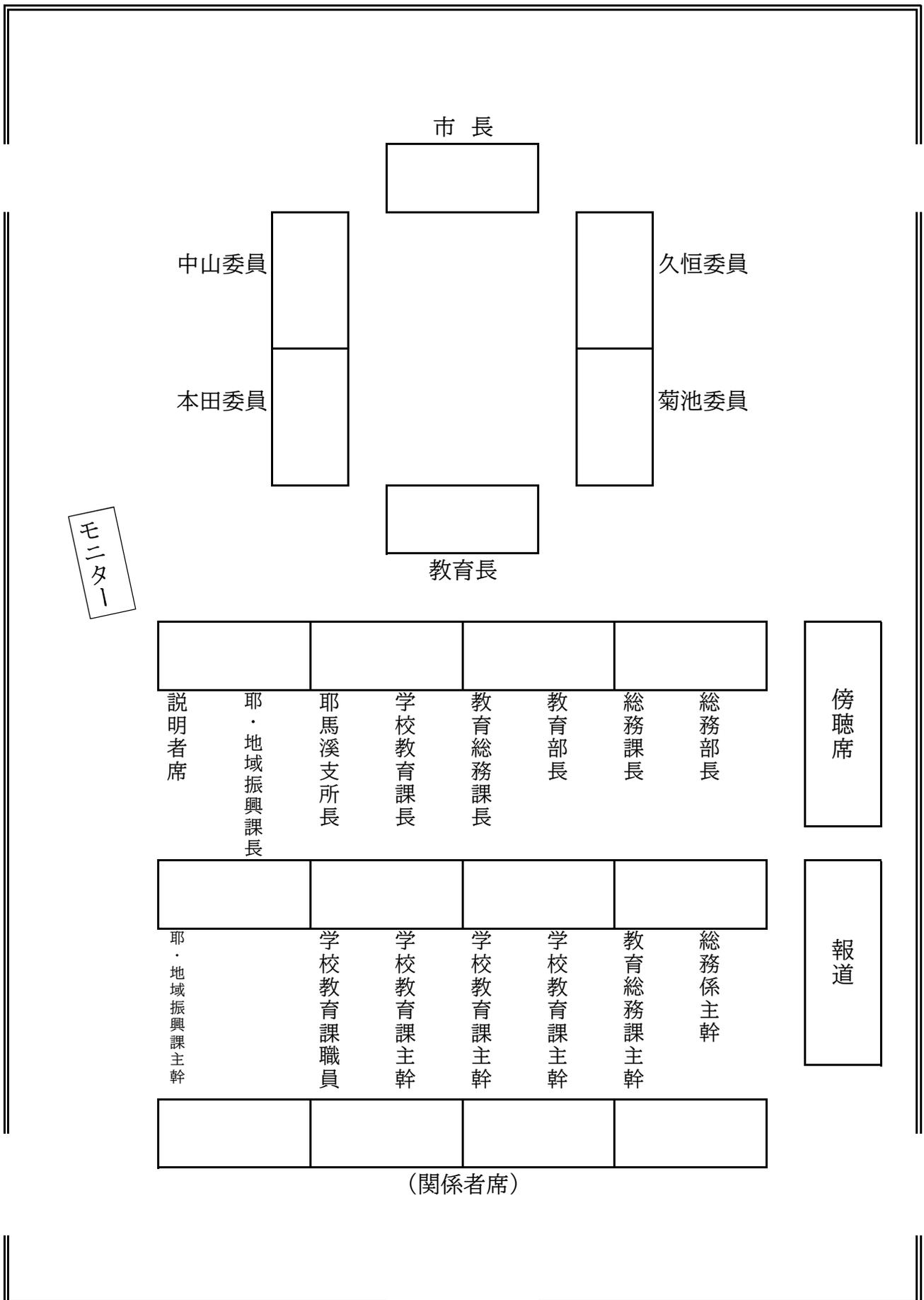
3. 協議・調整事項

（1）NEXT GIGA に向けての取り組みについて

4. その他

5. 閉 会

# 令和6年度中津市総合教育会議会場レイアウト(大会議室)



地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

発令：昭和31年6月30日法律第162号

（総合教育会議）

第一条の四 地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとする。

- 一 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策
  - 二 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置
- 2 総合教育会議は、次に掲げる者をもって構成する。
- 一 地方公共団体の長
  - 二 教育委員会
- 3 総合教育会議は、地方公共団体の長が招集する。
- 4 教育委員会は、その権限に属する事務に関して協議する必要があると思料するときは、地方公共団体の長に対し、協議すべき具体的事項を示して、総合教育会議の招集を求めることができる。
- 5 総合教育会議は、第一項の協議を行うに当たつて必要があると認めるときは、関係者又は学識経験を有する者から、当該協議すべき事項に関して意見を聴くことができる。
- 6 総合教育会議は、公開する。ただし、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき、又は会議の公正が害されるおそれがあると認めるときその他公益上必要があると認めるときは、この限りでない。
- 7 地方公共団体の長は、総合教育会議の終了後、遅滞なく、総合教育会議の定めるところにより、その議事録を作成し、これを公表するよう努めなければならない。
- 8 総合教育会議においてその構成員の事務の調整が行われた事項については、当該構成員は、その調整の結果を尊重しなければならない。
- 9 前各項に定めるもののほか、総合教育会議の運営に関し必要な事項は、総合教育会議が定める。

## 中津市総合教育会議運営要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「法」という。）第1条の4第9項の規定に基づき、中津市総合教育会議（以下「会議」という。）の運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

### (会議の招集)

第2条 市長は、法第1条の4第3項の規定により会議を招集しようとするときは、あらかじめ会議の場所及び日時並びに会議の協議・調整事項を決定し、教育委員会に通知するものとする。

### (会議の議事)

第3条 市長は、議長として会議の議事進行を行うものとする。

### (意見聴取)

第4条 会議は、法第1条の4第5項の規定により、関係者又は学識経験者の出席を求め、協議すべき事項に関して意見を聴くことができる。

2 前項に規定する関係者又は学識経験者の出席については、あらかじめ市長及び教育委員会において協議の上、市長が決定する。

### (会議の公開)

第5条 法第1条の4第6項ただし書の規定により、会議を非公開とする場合は、あらかじめ市長及び教育委員会において協議の上、市長が決定するものとする。

### (議事録の作成)

第6条 市長は、会議の終了後、遅滞なく、その議事録を作成し、これを公表するものとする。ただし、前条において非公開とした内容については、公表しないものとする。

2 前項に規定する議事録の公開は、市ホームページにおいて行うものとする。

3 第1項に規定する議事録は、会議の日程、出席者、協議・調整事項及び発言要旨を公開するものとする。

### (事務局)

第7条 会議の事務局を総務課に置く。

### (その他)

第8条 この要綱で定めるもののほか、会議の運営等に関し必要な事項は、市長が別に定める。

## 附 則

この要綱は、平成27年7月13日から適用する。

# NEXT GIGAに向けての取り組み

---

## 1 これまでの取り組み

- ・中津市のICT活用教育の推進について
- ・具体的な取組の様子
- ・第1期のまとめ

## 2 NEXT GIGAに向けて

---

**GIGAスクール構想** ※GIGA (Global and Innovation Gateway for All) ※令和2年度から本格スタート

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

### **NEXT GIGA**

- ✓ GIGAスクール構想の第2期のフェーズ。GIGAスクール構想をさらに発展させ、ICT環境の更新や進化を図ること

学校教育課 令和7年2月19日(水)

# 中津市のICT活用教育の推進について ～目標と学びの姿～

## 目標



## 中津市が目指すICTを活用した学びの姿

### ICTを活用した授業の日常化

- iPadを積極的に活用する（1日2～3回以上）
- 文具・教具として使用する
- 効果的な活用方法を探る

### 個別最適な学び、協働的な学びの実現

- ICTを活用した言語能力、情報活用能力の育成
- 各自の興味・関心を高めたり、学びを深めたりする学習
- 考えや意見の共有と、深い学びにつながる協働学習

### オンラインを活用した学びの保障と充実

- 緊急時及び長期欠席児童生徒に対しての学びの保障（AI型ドリル、学習支援アプリ、オンライン授業等）
- 遠隔会議システムを利用した多様な人とのつながり

# 中津市のICT活用教育の推進について ～全体計画～

## (1) 中津市の現状

### 《環境整備》

- (個人) ・児童生徒1人1台のiPad(キーボード付きカバー) ・授業者、管理職、養護教諭、栄養教諭1人1台のiPad
- (教室等) ・大型提示装置(プロジェクター)を各教室及び特別教室へ配置 小学校は普通教室にTVモニター有り
- ・無線アクセスポイントを各教室、特別教室及び体育館に設置 ・充電保管庫を各教室に配置
- ・通信ネットワークの高速化 ・フィルタリングソフトの導入 ・Webカメラ
- (学習支援アプリ等)
  - ・授業支援アプリ【ロイノート】 ・その他のアプリ【iPad標準アプリ等】
  - ・AI型ドリル【Qubena(小6～中2)】【eライブラリ(全学年)】
  - ・MEXGBT(メクビット) ※文科省CBT(Computer Based Testing)システム
  - ・学習者用デジタル教科書(英語:小5～中3、算数・数学:半数校)、指導者用デジタル教科書(教科による)

### 《活用状況》

大分県平均と同等か少し上回る活用率

#### ①授業における教員の活用頻度 (大分県の調査より<令和5年度末>)

R5	ほぼ毎日	半数以上	1割程度	使用していない
大分県全体	60.6%	24.0%	13.4%	2.0%
中津市	63.6%	21.4%	14.1%	1.0%

#### ②授業で端末を児童生徒に活用させている頻度 (大分県の調査より<令和5年度末>)

R5	ほぼ毎日	半数以上	1割程度	使用していない
大分県全体	30.3%	33.8%	30.7%	5.2%
中津市	30.3%	34.7%	32.3%	2.7%

## (2) 目標

◎ 子どもたちの「情報活用能力」の向上

◎ 教職員の「ICTを活用した指導力」の向上

◎ ICT活用のための環境整備

## (3) 中津市が目指すICTを活用した学びの姿

令和6年度中津市学校教育指針 重点

### ①ICTを活用した授業の日常化

- iPadを積極的に活用する(1日2～3回以上)
- 文具・教具として使用する
- 効果的な活用方法を探る

### ②個別最適な学び、協働的な学びの実現

- ICTを活用した言語能力、情報活用能力の育成
- 各自の興味・関心を高めたり、学びを深めたりする学習
- 考えや意見の共有と、深い学びにつながる協働学習

### ③オンラインを活用した学びの保障と充実

- 緊急時及び長期欠席児童生徒に対しての学びの保障 (AI型ドリル、学習支援アプリ、オンライン授業等)
- 遠隔会議システムを利用した多様な人とのつながり

## (4) 年次推進計画

校内の情報化推進委員、研究主任、教務主任等が連携し、組織的かつ系統的にICT活用教育を推進する

STEP1

使って慣れる段階

「すぐに」「だれでも」「どの教科でも」

令和3年度

- 各学級でiPadを活用した授業を1日2～3回程度実施
- iPadを活用した授業事例・単元計画の共有 (education等で共有)
- 教職員のスキルアップ研修 (校内3回以上) の実施
- ICT活用計画システムを作成
- 情報モラル教育の推進

STEP2

教員が効果的に活用する段階

教科の学びを深める 教科の本質に迫

令和4年度

- 児童生徒がiPadを活用した授業を1日2～3回程度実施
- 小学校高学年及び中学校の全学年で表現活動にiPadを活用
- iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有
- 教職員のスキルアップ研修 (校内3回以上) の実施
- 持ち帰り学習を週に1回以上実施
- 情報モラル教育の推進
- 情報活用能力育成のための単元配列表の作成 (ICT活用)

STEP3

児童・生徒も自在に活用する段階

教科の学びをつなぎ社会課題の解決をめざす

令和6年度

- 教科の特質や学習内容に応じたiPadの積極的かつ効果的活用
- 学校の壁を越えた学習の推進
- AIドリルを活用した個別最適な学習の推進 (小6～中2)
- 端末の持ち帰り学習を週に1回以上実施
- 情報モラル教育の推進
- iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有 (GIGA紹介シート等)
- 情報活用能力育成のための単元配列表の見直し
- 教職員のスキルアップ研修 (校内3回以上) の実施

- 教科の特質や学習内容に応じたiPadの積極的かつ効果的活用
- 学校の壁を越えた学習の推進
- AIドリルを活用した個別最適な学習の推進 (小6～中2) ※小5は7月よりトライアル実施予定
- 端末の持ち帰り学習を週に1回以上実施
- 情報モラル教育の推進
- iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有 (GIGA紹介シート等)
- 情報活用能力育成のための単元配列表の見直し
- デジタル教科書の効果的活用
- 教職員のスキルアップ研修 (校内3回以上) の実施

中津市ICT活用教育推進校

※iPadを活用した主体的に学び、考えを深める授業の推進 (令和3年度、4年度は如水小学校、豊陽中学校) (令和5年度、6年度は 本耶馬溪中学校、耶馬溪中学校、山国中学校)

中津市ICT活用教育検討委員会  
 学校長若干名 小学校教諭2名 中学校教諭2名 中津市教育委員会担当指導主事

中津市ICT活用教育推進委員会  
 各学校推進委員 中津市教育委員会担当指導主事



# 中津市のICT活用教育の推進について

## ～令和6年度の計画～

### 1 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【推進委員会】	推進委員会		①		②			③				
【各種研修】	iPadSU研		《プレゼンテーション》		《デジタルブック》		《動画編集》					
	ロイロ				活用研修		校内や個人で随時(ホームページより)					
	Qubena		活用研修				校内や個人で随時(ホームページより)					
	eライブラリ						校内で随時(申し込み方法は後日)					
			①		②						③	
【環境整備等】					校務支援システム「T-Comp@ss(Tコンパス)」の研修							
									AIドリル「Qubena(キュビナ)」の小5トライアル			
					保守業務・授業支援・校務支援・校内研修 等(ICT支援員)			校務支援・校内研修・環境整備(GIGAスクールサポーター)				

### 2 全体の取組

#### 研修・研究会

【目的】ICTの効果的な活用に向けて、全教職員の個や目的に応じたスキルアップを図る。

**iPadスキルアップ研修**  
活用目的に応じた研修年間3回  
(プレゼン)【デジタルブック】【動画編集】  
対象：希望者

**ICTを活用した授業改革リーダー育成研修**  
(第3期イノベーター育成研修)  
年間3回 集合(場合によってはオンライン)  
対象：希望者(年度当初に募集)

ICT活用推進校公開研究会

**学習支援アプリ研修**  
①ロイロノート研修  
(基本)ロイロノートのHPより  
(活用)年間1回集合  
②Qubena活用研修  
③eライブラリ活用研修  
各学校で随時申込、研修

**その他研修**  
①情報モラル研修  
②校務改革研修(Te-Comp@ss、Teams等の活用) ※推進委員会と兼ねる可能性あり

#### サポート・環境整備等

- ICT支援員・GIGAスクールサポーターによる授業支援・校務支援・校内研修等
- AI型ドリル「Qubena(キュビナ)」の小5トライアル
- 校務支援システム「Te-comp@ss(Tコンパス)」のサポート
- ICT活用推進校の授業支援
- iPadを活用した授業事例の共有(GIGA紹介シート、中津学通信等)



自立  
できる  
力を  
育て、  
社会で  
活躍  
できる  
子ども  
の  
育成

#### ICT活用教育推進委員会

【目的】ICTを活用した授業づくりや管理・運用について、各学校の推進委員が集まり、情報交換や共有と今後の取り組みについて協議することで、校内でのICT活用推進につなげる。(3回/年、オンラインまたは集合)

学校の情報化推進体制



#### 推進校の取り組み【令和5・6年度】(本耶馬溪中、耶馬溪中、山国中)

【目的】主体的に学び、考えを深める授業を推進する中で、ICT機器等を活用し学校の壁を越えた学習や活動に取り組み、多様な見方や考え方に触れる良さを他校へ普及・啓発する。

- ①令和5年度 生徒・教職員同士のつながりを深め、3校連携してできる取り組みを探る。授業、特別活動、総合的な学習の時間 等
- ②令和6年度 公開研究会(実践事例等の発表)



### 3 各学校の取組

- 教科の特質や学習内容に応じたiPadの積極的かつ効果的活用
- 学校の壁を越えた学習の推進
- AIドリルを活用した個別最適な学習の推進(小6～中2)  
※小5は7月よりトライアル実施予定

- 端末の持ち帰り学習を週に1回以上実施
- 情報モラル教育の推進
- iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有(GIGA紹介シート等)

- 学習者用デジタル教科書の活用(英…全校、算・数…半数)
- 情報活用能力育成のための単元配列表の見直し
- 教職員のスキルアップ研修(校内3回以上)の実施

# 具体的な取組の様子 **取組 1** 教科の特質や学習内容に応じたiPadの積極的かつ効果的活用

## 一斉学習におけるICT活用

### ◇教材等の提示場面

提示内容を視覚的に分かりやすく伝えることが可能



### ◇作業方法や実演の映像等の提示

学習活動を焦点化したり、学習課題への理解を深めることが可能



## 個別学習におけるICT活用

### ◇個に応じた学習 ◇家庭学習 ◇調査活動

習熟の程度に応じて各自のペースで学習を進めることが可能



### ◇思考を深める学習

デジタルコンテンツや授業支援アプリ等の利用により考えを深めることが可能



写真や動画の記録による細かな観察や、インターネット等による情報の収集が可能



### ◇表現・制作活動

アプリ等の活用により技能の習得や表現技法の向上、作品を通じた意見交流等が可能



## 協働学習におけるICT活用

### ◇発表や話し合い

考えを整理して伝えあったり、表現や考えを記録・共有し見直しながらか話し合ったりすることで多様な見方、考え方に触れることが可能



### ◇協働での意見整理

互いの考えを視覚的に共有することにより、意見交流が活発になったり、グループ内の議論を深めたりすることが可能



### ◇学校の壁を越えた学習

インターネットを活用し他校の子どもたちや地域の人々、専門家の方との交流を通して、多様な見方や考え方に触れたり、教科等の学びを深めることが可能



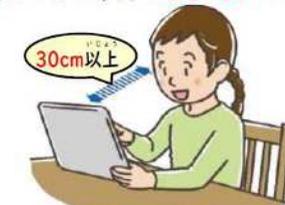
## オンラインを活用した学習の広がり

- ・中学生生徒代表者意見交換会(SOEM)の開催  
(中津市内の中学校生徒会同士との交流)
- ・オンライン英会話教室(中学生対象)
- ・オンライン英検塾(学びのススメ英検塾)
- ・AIドリル(Qubena)の家庭での利用
- ・モバイルWi-Fiルーターの市教委からの貸し出し  
家庭・・・SIMカードの契約、通信費は保護者負担  
学校・・・校外学習等での活用の際にSIM付で貸出

## 健康面への配慮



①タブレットを見るときは、目を**30cm**以上はなすべし!



②**30分**に1回はタブレットから目をはなして、**30秒**以上遠くを見るべし!



あいことは合言葉はトリプル30じゃ!  
そとあそびけんこうも目の健康をまもることにつながるそうじゃ!

各学校へ「目を守る30-30-30のすすめ」を配付。教室等に掲示することで、職員及び児童生徒への啓発を図る。

- ①ICT活用教育推進校（本耶馬溪中、耶馬溪中、山国中）における取組  
～オンライン会議システムを活用した3校連携学習～
- ②三津同盟締結による教育分野での交流事業  
～岡山県津山市の小学校との交流授業～
- ③埼玉県深谷市立豊里小学校との交流授業
- ④アバターを活用した遠隔学習
- ⑤中学校技術分野における情報教育（プログラミング学習）  
～大分大学教授による遠隔授業～

## 具体的な取組の様子 **取組2** 学校の壁を越えた学習の推進

### ①ICT活用教育推進校（本耶馬溪中、耶馬溪中、山国中）における取組 ～オンライン会議システムを活用した3校連携学習～

**推進校の取り組み【令和5・6年度】**（本耶馬溪中、耶馬溪中、山国中）

【目的】主体的に学び、考えを深める授業を推進する中で、ICT機器等を活用し学校の壁を越えた学習や活動に  
取り組み、多様な見方や考え方に触れる良さを他校へ普及・啓発する。

#### 英語の授業の様子 **動画1**



#### 【遠隔授業の方法】

～英語科の授業の場合～

「修学旅行の思い出について交流しよう」

《活用アプリ》

Microsoft Teams

※資料の共有や会議が可能

《学習の流れ》

全体でつなぐ



グループで  
つなぐ



全体でつなぐ

①教師がめあての確認、流れの説明

②発表の練習

③グループでの発表

各校1～2名ずつが入った3～5名のグループ  
英語での質問、やり取り

④いくつかのグループの発表

⑤活動の振り返り

## 具体的な取組の様子 **取組2** 学校の壁を越えた学習の推進

### ②三津同盟締結による教育分野での交流事業 ～岡山県津山市の小学校との交流授業～

【目的】『蘭学・洋学 三津（さんしん）同盟』の締結を踏まえ、教育分野において、郷土の歴史等について、学校間交流し、お互いの郷土の誇りと愛着（郷土愛）をもつ子どもたちの育成を図る。

小楠小ー津山市立林田小

**動画2**



下郷小、津民小ー津山市立高田小

**動画3**

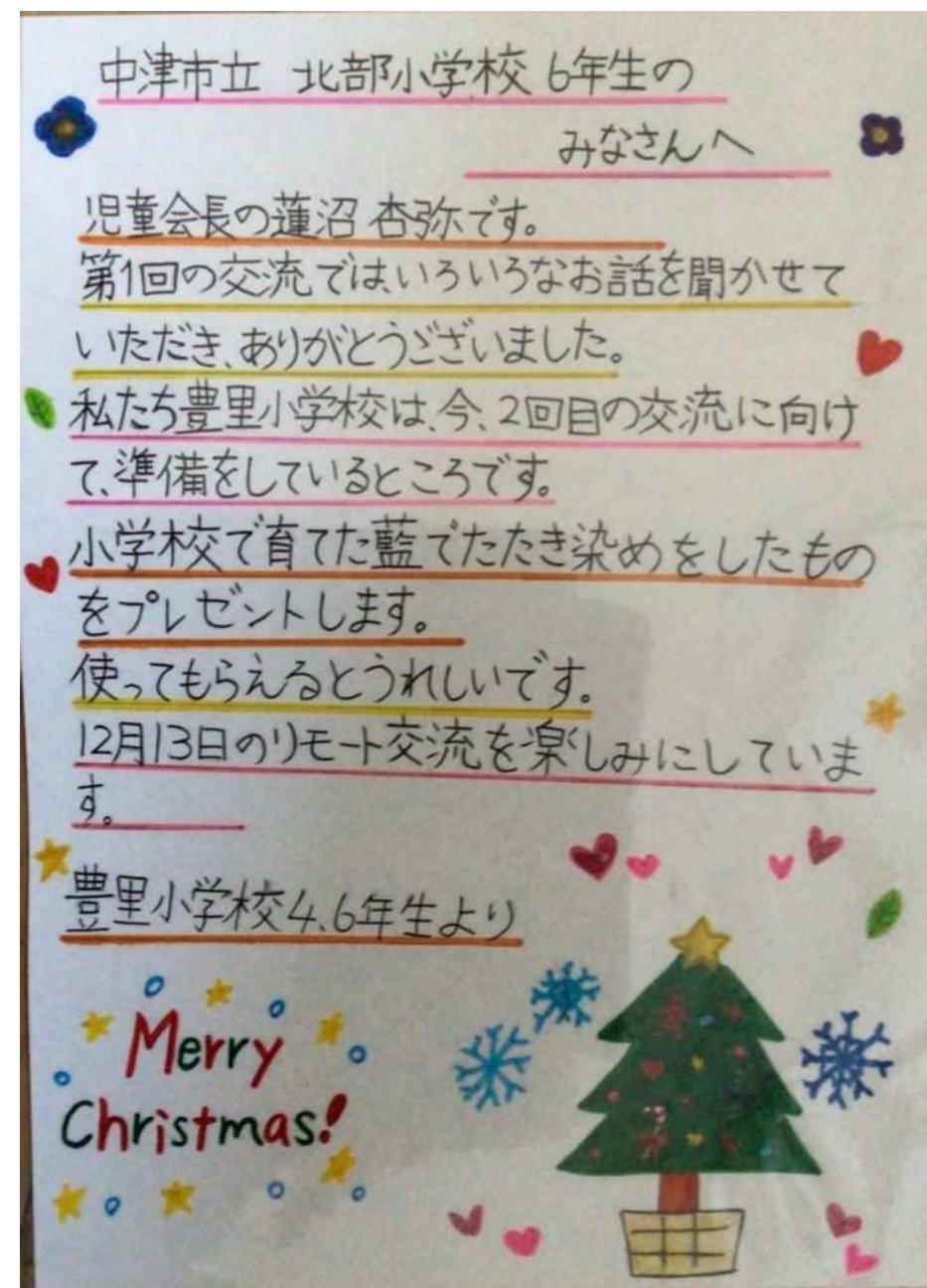


## 具体的な取組の様子 **取組2** 学校の壁を越えた学習の推進

### ③埼玉県深谷市立豊里小学校との交流授業

一万円札の肖像の交代に合わせた小学生同士のオンライン交流

- 1回目・・・福澤諭吉、渋沢栄一のことについてお互い紹介し合い、それぞれの人物について知る。
- 2回目・・・6つのグループに分かれ、お互いの市や学校などのことについて自由に交流する。



## 具体的な取組の様子 **取組2** 学校の壁を越えた学習の推進

### ④ アバターを活用した遠隔学習



京都鉄道博物館



### アバター (AVATAR)

- ✓ 遠隔地に置かれたロボットに意識、技能、存在感を瞬間移動リアルタイムでコミュニケーションや作業が可能
- ✓ 自分の分身のように「見て(視覚)」「聞いて(聴覚)」「触る(触覚)」ことのできる技術

### 《アバターを活用した遠隔見学場所》

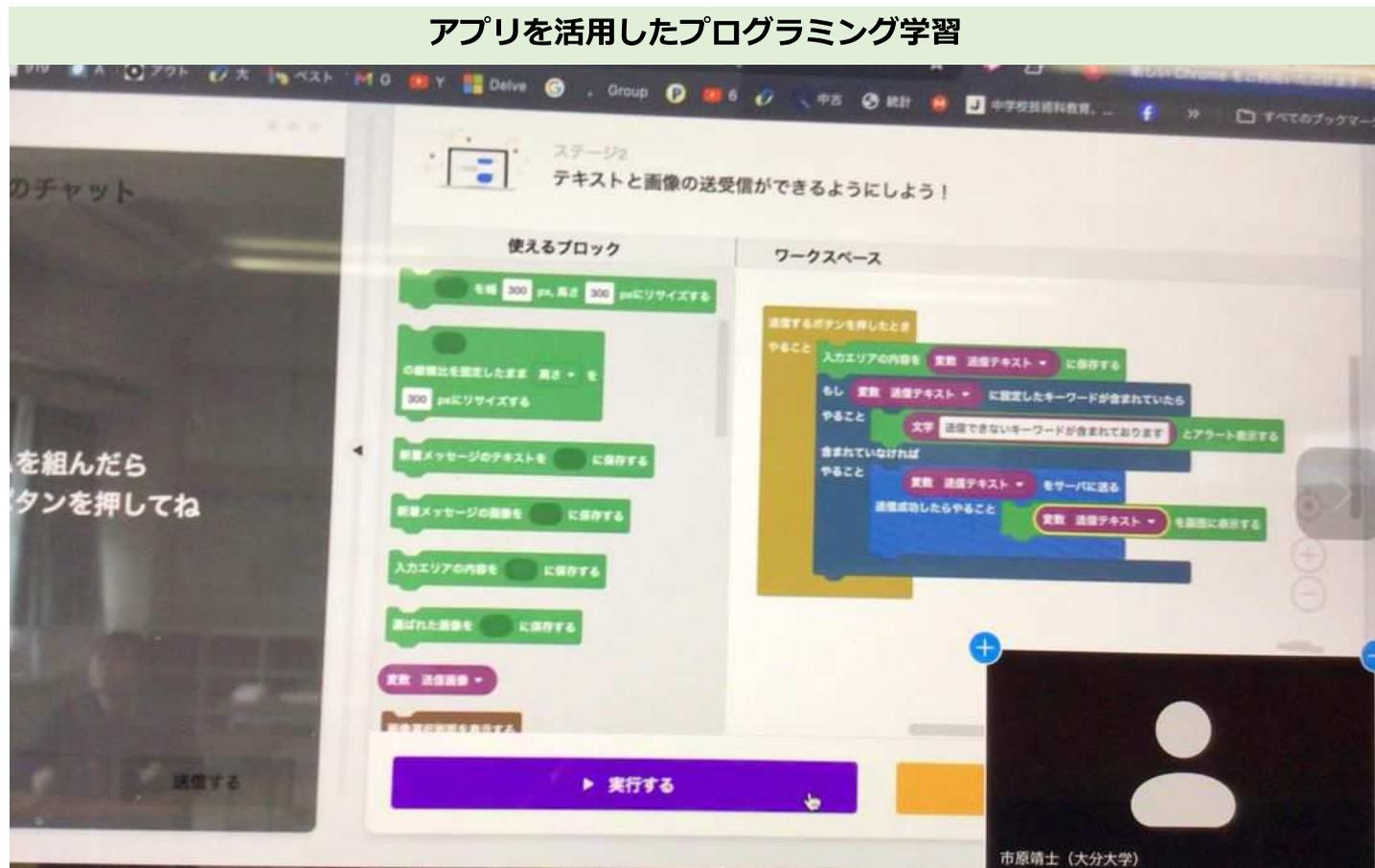
カップヌードルミュージアム大阪池田  
九州国立博物館  
奈良国立博物館  
JAXA種子島/筑波宇宙センター科学館  
岐阜かがみがはら航空宇宙博物館  
京都鉄道博物館



カップヌードルミュージアム大阪池田

# 具体的な取組の様子 **取組2** 学校の壁を越えた学習の推進

## ⑤ 中学技術における遠隔学習（プログラミング）～大分大学教授による遠隔授業～



# 具体的な取組の様子 **取組3** AIドリルを活用した個別最適な学習の推進（小6～中2）

## AIドリル「キュビナ（Qubena）」の導入 令和5年7月より 対象：小学校6年生～中学校2年生

【目的】 児童生徒一人ひとりに応じた個別最適な学びの実現と、知識・技能を中心とした基礎学力の定着を効率的・効果的に図る。



### 【成果】

- 多くの児童生徒の平均正答率が伸びている。（R6.7～9月の効果検証より）
- 「取り組み量が多い」「丁寧に取り組んでいる」児童生徒の伸びが大きい。

	平均正答率の伸び	正答率が上昇した児童生徒の割合	平均解答時間（1問あたり）
小学校国語	+12.4pt	88.3%	-1.4秒
小学校算数	+4.4pt	70.6%	-17.8秒
中学校英語	+8.0pt	77.7%	-6.6秒
中学校数学	+8.8pt	77.4%	-9.8秒

○教職員の満足度が高い。（R6.8月の調査より）

### 令和6年9月からの取組

#### キュビナを活用した単元テスト

#### 【目的】

- ・知識・技能を中心とした基礎学力の定着を確実に図るとともに、一人ひとりに応じた個別最適な学びを充実させるために行う。

#### 【対象】

- ・中学生1・2年生（数学・英語）

#### 【内容】

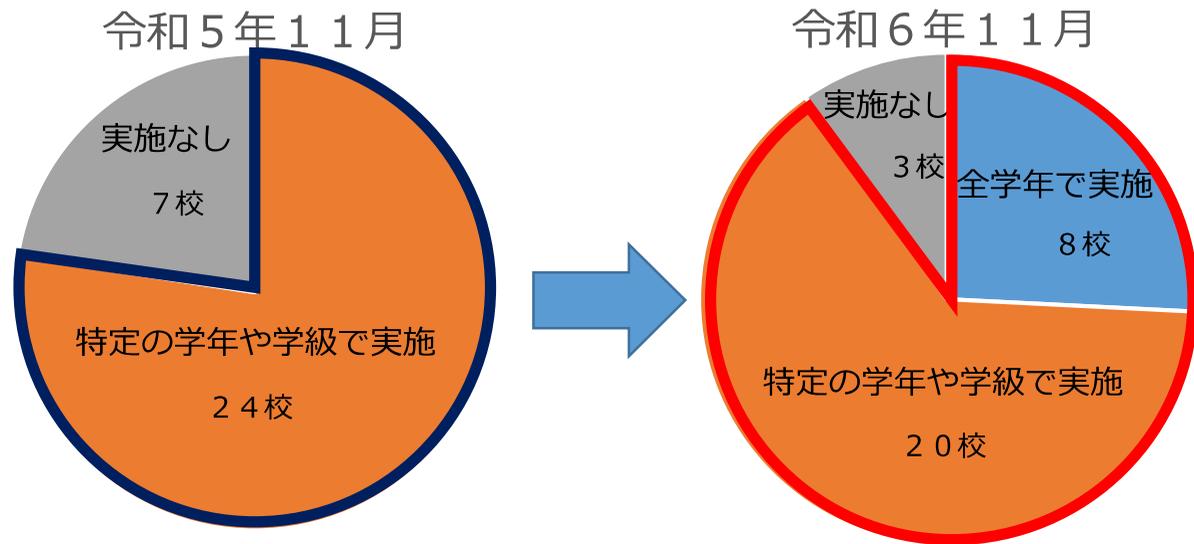
- ・キュビナの自治体ワークブック機能を利用し、市教委より市内の全中学校へ単元テストを配信する。
- ・令和6年9月より行う。
- ・各中学校は、進捗の状況に応じて単元の終末に問題を解く。（各教科20分程度）
- ・解答状況は、各学校でキュビナマネージャーより確認することができる。
- ・単元テストの結果より、定着できていないところを学び直し、再度単元テストを行う。
- ・市教委は、平均点等を各中学校に共有する。

年度が替わっても、教職員が替わっても、子どもが替わっても、必ず取り組み、常にどの学年・教科でも「偏差値50以上」の力を。

日	月	火	水	木	金	土
9/1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	10/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	11/1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

# 具体的な取組の様子 **取組4** 端末の持ち帰り学習

## 平時の端末持ち帰り状況



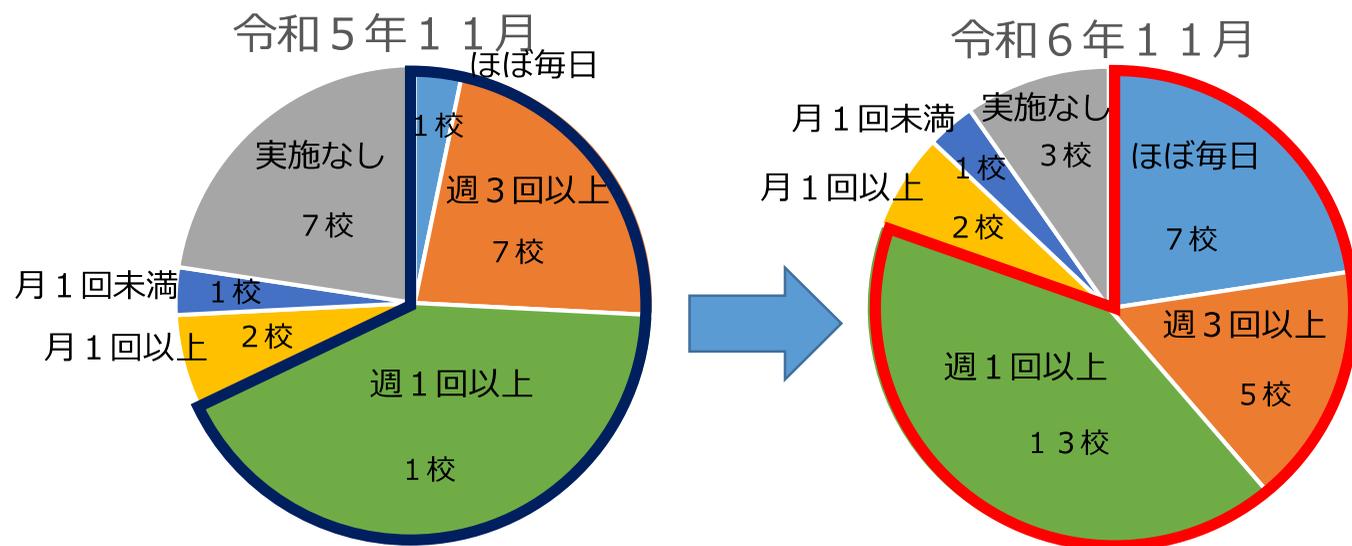
### 【成果】

- ・ **目標である週1回以上の持ち帰り**をすることに関しては、8割以上の学校が達成している。
- ・ AIドリルでの学習はもとより、それ以外の学習に取り組めている学校が増えつつある。

### 【課題】

- ・ **学校間格差**が広がっている。
- ・ 生徒指導上の問題等を懸念して、持ち帰りに踏み切れない学校がある。

## 持ち帰りの頻度



### 【今後の取組】

- ・ これまで効果のあった「創作活動（写真や動画等の活用）」「学習の延長（プレゼン作成、レポート作成、ドリル等）」を中心に目的を明確にして持ち帰らせる必要がある場面を増やす。

# 具体的な取組の様子 **取組5** 情報モラル教育の推進

## 「GIGAワークブック」の活用による情報モラル教育の推進



「GIGAワークブックおおいた」  
子どもたちがネットの特性や問題点を理解し、トラブルが起きた場合の対応を自ら考えることができる **活用型情報モラル教材**

トラブル事例の提示だけではなく、問題を「自分のこと」として自覚させ、安易な結論を与えず、どのように対応すればよいかを様々な状況で考え続けさせる（トレーニングさせる）情報モラル教育を推進

### 「GIGAワークブック」の事例

自分と相手との違い

1 あなたが、SNS等でクラスの友達からされて「嫌だ」と感じる順に並べてみましょう。

1 すぐに返信が来ない	2 なかなか会話が終わらない	3 知らないところで自分の話題が出ている	4 話をしているときにケータイ・スマホをさわっている	5 自分と一緒に写っている写真を公開される
----------------	-------------------	-------------------------	-------------------------------	--------------------------

嫌だ ← → 嫌ではない

2A 一番「嫌だ」と感じるカードを選んだ理由を書きましょう。

2B 一番「嫌ではない」と感じるカードを選んだ理由を書きましょう。

### 自分と相手との違い

嫌だ	嫌だ	嫌だ	嫌だ	嫌ではない
1 自分と一緒に写っている写真を公開される	2 話をしているときにケータイ・スマホをさわっている	3 知らないところで自分の話題が出ている	4 なかなか会話が終わらない	5 すぐに返信が来ない

3 たかしさんと花子さんに、どのようなトラブルが起きる可能性があるか、考えてみましょう。

！ ネットの特性

文字だけで伝えると、そのときの「感情」が伝わらないので、相手に誤解されることがあります。例えば、直接、相手に「真面目だね」と言う場合には、そのときの自分の表情や口調から、相手は「真面目だね」の意図を理解します。しかし、文字だけで「真面目だね」と伝えると、自分の表情や口調が相手には伝わらないので、自分が伝えたかった「真面目だね」の意図が誤解されてしまう場合があります。

# 具体的な取組の様子 取組6 iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有（GIGA紹介シート等）

## Good Idea! Good Action! 紹介シート（授業）

県の授業事例の募集に応募してもよい(○)

◇学校学年【中津市立本耶馬溪中学校年】 ◇教科【国語科】 ◇単元名（教科書ページ）【地域の魅力を伝える俳句を、選評しよう！～グループディスカッション～（34ページ）】  
◇使用した機器【iPad】 ◇使用したアプリ（教員）【Teams・Zoom・スクールワーク】 ◇使用したアプリ（児童生徒）【Teams・スクールワーク】

活用した授業のめあて（課題）：互いの考えを生かし、おすすめ俳句を決めよう！



他校の生徒とグループを作り、自分が選んだ俳句の選評を紹介し、理由を伝え合う。



互いの理由を参考にし、どの作品をグループとして、おすすめの俳句にするか話し合う。



スクールワークを使って、本時で学んだことを振り返り、次時の学習を確認する。

### Good Idea! Good Action! 成果や課題

いつものグループ集団ではなく、他校と交流することで、積極的に話し合おうとする姿が見られた。また、自然に司会者が決まったり、会話をつなげようとしたりする生徒もいて話し合う力が身についていると思われる。しかし、人間関係ができていない中での交流となるので、事前に簡単な自己紹介やゲームをして仲間作りをする必要性を感じた。

### Good Idea! Good Action! おススメポイント

日常と違うグループでの活動のため、日頃見られないような一面を見ることができた。少人数の学校だと交流するといっても狭い考えしか出てこないが、他校と交流することで自分たちになかった考えが出てきて広がりを感じることができる。今回の学習では、Teams・Zoom・スクールワークとたくさんのアプリを使用したため、教員側のスキルがもとめられる。ただし、使えるようになると、効果的な場面でそれぞれのアプリを使用し、実りのある授業になった。

# 具体的な取組の様子 **取組6** iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有（GIGA紹介シート等）

県の授業事例の募集に応募してもよい(O)

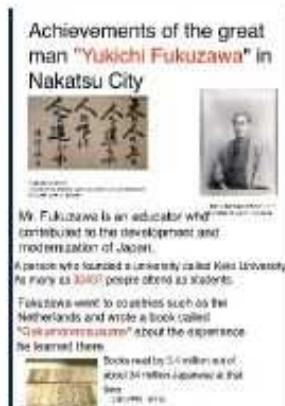
## Good Idea! Good Action! 紹介シート（授業）

- ◇学校学年【中津市立北部小学校 6年】
- ◇教科【総合的な学習】
- ◇単元名（教科書ページ）【中津市の偉人】
- ◇使用した機器【iPad】
- ◇使用したアプリ（教員）【YouTube】
- ◇使用したアプリ（児童生徒）【ロイロノート、pages、keynote、iMovie】

活用した授業のめあて（課題）：観光客へ福澤諭吉について発信しよう



中津市の偉人(福澤諭吉)について調べ学習を行う。福澤諭吉について知らない人にもわかるような説明やすごさが伝わるように情報をまとめる



まとめた情報を元に発信用に加工する。KeynoteやiMovieでの動画作成や福澤諭吉記念館に掲示するポスター作成を行う。外国人観光客にもわかるように様々な言語に対応したポスターも作成した。



完成した動画はYouTubeへ投稿し、ポスターは実際にきていただいた観光客の方に見ただけのように福澤諭吉記念館へ掲示していただいた。

**Good Idea! Good Action! 成果や課題**  
 学校の外的世界とつながることで目的意識や主体的なまなびにつながった。自分が中津市のためにできることを考えて一人一人が取り組むことができた。郷土の偉人というテーマが歴史と関係しており、理解するのが難しく、情報をまとめる上で苦労した。

**Good Idea! Good Action! おススメポイント**  
 総合的な学習とタブレットやSNSの組み合わせは児童の願いや思いを達成するのに最適な組み合わせだと感じた。外的世界と容易につながることができたため、より探求的な学びが実現できると感じた。しかし、SNSのような不特定多数の方から見られる媒体を利用するときの、肖像権や著作権、児童のプライバシーなど細やかな確認が大変だった。  
 総合的な学習で利用したSNSアカウントー  
 (Twitter、Instagram、YouTube)



# 具体的な取組の様子 **取組7** 情報活用能力育成のための単元配列表の見直し

取組を振り返り、毎年各学年の年間指導計画の見直しを行っている。

令和〇年度 情報活用能力育成のための年間指導計画(例)											第6学年		
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 時数	
国語			具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう ・私たちにできること A(ア) B(ア)	生活の中で読もう ・利用案内を読もう A(ア) (カ)			日本文化を発信しよう A(ア) (エ) B(エ)			今、私は、ぼくは B(ア) (キ)		140	
書写													
社会	★目的に応じて、より良い方法で情報を収集したり、関連付けたり、整理したりする。 A(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ) B(ア)(イ)(ウ) ★単元のまとめで、iPadのアプリを活用し、表現活動(プレゼン、新聞づくり等)を行う。 B(エ)(オ)(カ)(キ)											105	
算数							[データの調べ方] データの持ちよを調べて判断しよう B(ク) ★プログラミング					175	
理科				実験や観察の様子を記録し、確かめたり振り返ったりする。(通年) B(ア)(イ)(ウ)(オ)									105
総合	探究的な学習の過程において、次の資質・能力が育成されるよう計画的に取り組む。 A(ア)(イ)(オ)(カ)(キ) B(ア)(イ)(ウ)(オ)											70	
特活			学校図書館の活用 A(ウ)(エ)				学校図書館の活用 A(ウ)(エ)					35	
道徳					責任を自覚して ・気に入らなかった写真 ・インターネット上の権利 ★情報モラル							35	
外国語	★単元のまとめで、iPadのアプリを活用し、表現活動(プレゼンテーション等)を行う。 B(エ)(オ)(カ)(キ)											70	
音楽		いろいろな音のひびきを味わおう リズム・パターンを組み合わせたまとまりのある音楽づくり(プログラミング)										50	
図工												50	
家庭							くふうしよう楽しい食卓 A(ケ) B(ク)					60	
体育	●運動の様子をタブレット等で撮影し、確認したり振り返ったりして、技能の向上につなげる。(通年) A(エ)											90	

# 具体的な取組の様子 **取組8** 教職員のスキルアップ研修

## iPadスキルアップ研修

- 目的  
iPadの基本操作や基本アプリの操作と活用方法について、説明による操作演習を通して、理解を深める。
- 年間5回、希望者、オンライン中心



## 学習支援アプリ研修

- 目的  
「eライブラリ」の基本操作や活用方法、「ロイロノートスクール」の実践的活用方法を学び、授業等での活用技能向上を図る。
- 活用研修は集合で年間1回、基本研修は学校ごとの希望制でオンライン



## ICTを活用した授業改革リーダー育成研修

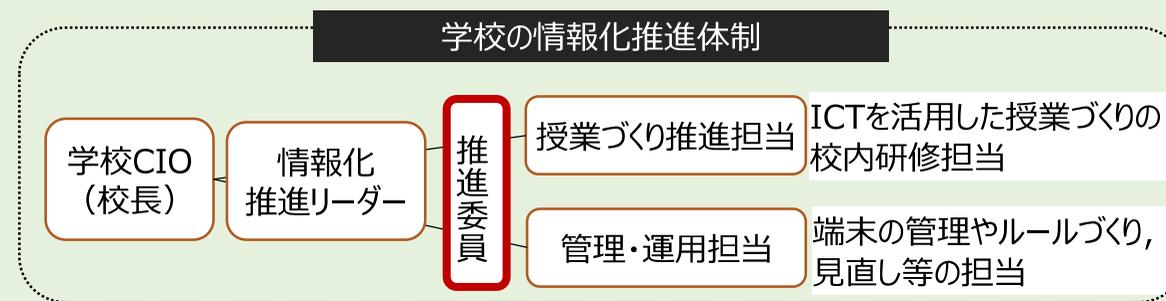
(イノベーター育成研修)

- 目的  
タブレット端末等のICT機器を活用した「主体的に学び、考えを深める授業(みんな活躍授業)」を探究する授業改革リーダーを育成する。



## ICT活用教育推進委員会

- 目的  
ICTを活用した授業づくりや管理・運用について、各学校の推進委員が集まり、情報交換や共有と今後の取り組みについて協議することで、校内でのICT活用推進につなげる。(3回/年、オンラインまたは集合)



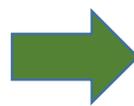
# 第1期のまとめ ～環境整備と活用状況～

第1期(令和2年度～令和6年度)

## 環境整備と活用の促進

STEP1

使って慣れる段階  
「すぐに」「だれでも」「どの教科でも」



STEP2

教員が効果的に活用する段階  
教科の学びを深める 教科の本質に迫る

### 【環境整備】

- (個人)
  - ・児童生徒1人1台のiPad (キーボード付きカバー)
  - ・授業者、管理職、養護教諭、栄養教諭、学校図書館司書1人1台のiPad
- (教室等)
  - ・大型提示装置 (プロジェクター) を各教室及び特別教室へ配置  
小学校は普通教室にTVモニター有り
  - ・無線アクセスポイントを各教室、特別教室及び体育館に設置
  - ・充電保管庫を各教室に配置
  - ・通信ネットワークの高速化
  - ・フィルタリングソフトの導入
  - ・Webカメラ
- (学習支援アプリ等)
  - ・授業支援アプリ【ロイロノート】
  - ・その他のアプリ【iPad標準アプリ等】
  - ・AI型ドリル【Qubena (小6～中2)】【eライブラリ (全学年)】
  - ・学習eポータル【L-Gate】 ※MEXCBT (メクビット) 文科省CBT (Computer Based Testing) システムに接続
  - ・学習者用デジタル教科書 (英語: 小5～中3、算数・数学: 半数校)
  - ・指導者用デジタル教科書 (教科による)

### 【活用状況】

大分県平均と同等か少し上回る活用率

①授業における教員の活用頻度  
(「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」 <令和5年度末>)

R5	ほぼ毎日	半数以上	1割程度	使用していない
大分県全体	60.6%	24.0%	13.4%	2.0%
中津市	63.6%	21.4%	14.1%	1.0%

②授業で端末を児童生徒に活用させている頻度  
(「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」 <令和5年度末>)

R5	ほぼ毎日	半数以上	1割程度	使用していない
大分県全体	30.3%	33.8%	30.7%	5.2%
中津市	30.3%	34.7%	32.3%	2.7%

## 第1期のまとめ ～児童生徒の意識～

R6全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙より

Q 昨年までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（「とてもそう思う」「そう思う」を選んだ肯定的回答の割合）

**全ての項目で全国平均を上回っている**

**⇒ICT活用を肯定的に捉えているとともに、効果的な活用が広がってきている。**

	小学校6年生		中学校3年生	
	中津市	全国	中津市	全国
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	<b>87.5</b>	85.5	<b>85.4</b>	80.2
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	<b>92.7</b>	92.1	<b>96.6</b>	93.9
(3) 楽しみながら学習を進めることができる	<b>88.8</b>	86.0	<b>85.2</b>	82.4
(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	<b>90.0</b>	89.8	<b>91.1</b>	89.0
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	<b>83.3</b>	79.2	<b>84.2</b>	77.7
(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	<b>88.0</b>	86.1	<b>90.9</b>	86.2
(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる	<b>88.6</b>	87.1	<b>87.4</b>	85.2

# NEXT GIGAに向けて

## 第2期(令和7年度～)

**NEXT GIGA**・・・GIGAスクール構想の第2期のフェーズ。GIGAスクール構想をさらに発展させ、ICT環境の更新や進化を図ること  
全国的な課題

【ハード面】 「端末の故障の増加」 「バッテリーの劣化」

【ソフト面】 「自治体や学校によって利活用状況に差」 「先生のICTスキル不足」 「研修体制の不足」 「ICT支援員の不足」

### 中津市の課題

- ① 「端末入替（リプレイス）の支援」
- ② 「さらなる利活用の促進」
- ③ 「学校間、学校内格差の解消」

### 今後の取組

- ① 端末入替に向けてのスケジュールと作業内容（市教委、各学校）の確実な周知と丁寧なサポート
- ② 先生方にニーズに合った各種研修の充実
- ③ 好実践の共有や授業参観の場の設定

## 環境の充実と活用の深化

STEP2

教員が**効果的に活用**する段階  
教科の学びを深める 教科の本質に迫る



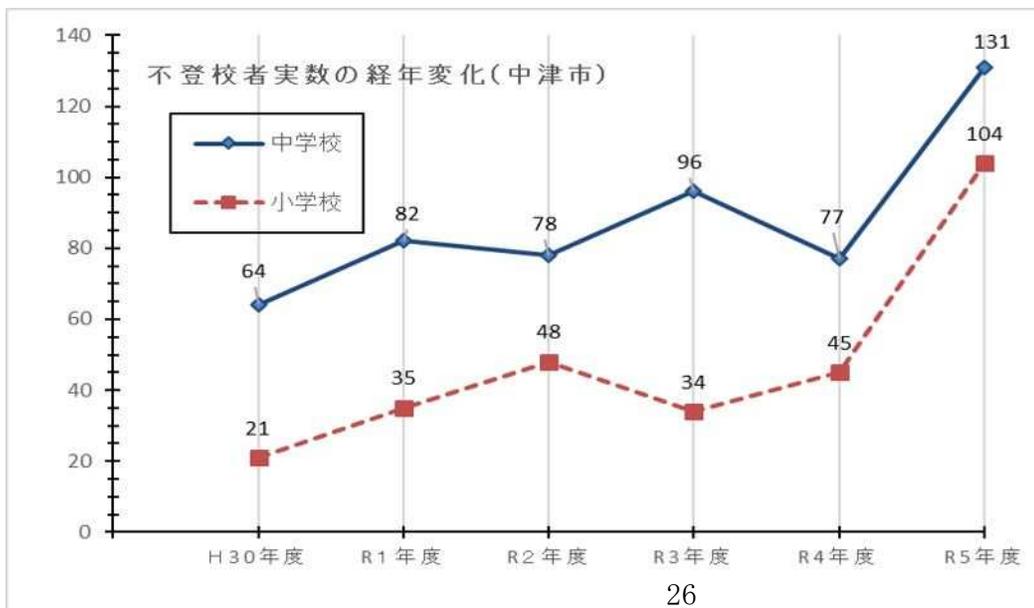
STEP3

児童・生徒も**自在に活用**する段階  
教科の学びをつなぎ社会課題の解決をめざす

各学校でSTEP 2の確実な実践とSTEP 3への発展

# 中津市の不登校児童生徒数の推移(過去5年)

年度	小学校			中学校			合 計		
	全国	大分県	中津市	全国	大分県	中津市	全国	大分県	中津市
R1年度	53,350 (0.83%)	558 (0.94%)	35 (0.74%)	127,922 (3.94%)	1,285 (4.35%)	82 (3.61%)	181,272	1,843	117
R2年度	63,350 (1.0%)	618 (1.05%)	48 (1.02%)	132,777 (4.09%)	1,374 (4.64%)	78 (3.42%)	196,127	1,992	126
R3年度	81,498 (1.3%)	706 (1.23%)	34 (0.74%)	163,442 (5.0%)	1,706 (5.69%)	96 (4.13%)	244,940	2,412	130
R4年度	105,112 (1.7%)	816 (1.44%)	45 (0.98%)	193,936 (5.98%)	1,887 (6.34%)	77 (3.34%)	299,048	2,703	122
R5年度	130,370 (2.14%)	1,044 (1.88%)	104 (2.28%)	216,112 (6.71%)	2,114 (7.11%)	131 (5.68%)	346,482	3,158	235



( ) の数字は出現率

# 学年別の不登校児童生徒数の推移

## <小学校>

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学校合計
R1	0	4	3	6	12	10	35
R2	4	2	6	5	3	20	40
R3	2	5	4	5	8	10	34
R4	6(0)	5(0)	4(1)	9(2)	10(1)	11(5)	45(9)
R5	6(0)	16(1)	13(1)	19(0)	18(3)	32(3)	104(8)
R4⇒R5 増減	0(0)	11(1)	9(0)	10(▼2)	8(2)	21(▼2)	59(▼1)

## <中学校>

	中1	中2	中3	中学校合計
R1	17	27	38	82
R2	15	31	32	78
R3	34	24	38	96
R4	22(0)	39(4)	16(1)	77(5)
R5	27(3)	38(4)	66(3)	131(10)
R4⇒R5 増減	5(3)	▼1(0)	50(2)	54(5)

( )内の数字は、  
特別支援学級に  
在籍する児童生  
徒の人数

# 中津市の不登校の状況と取組について (R6年度)

現状と課題

### ○不登校者数/1000人当たり不登校者数

(R3) 小: 34人 / 7.4人 中: 96人 / 41.3人  
 (R4) 小: 45人 / 9.8人 中: 77人 / 33.4人  
 (R5) 小: 104人 / 22.8人 中: 131人 / 56.8人

→不登校児童生徒について把握した事実 (学校からの情報より)

小学校: ①「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」②「家庭生活の変化に関する情報や相談があった」③「親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった」の順に多くなっている。

中学校: ①「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」②「生活リズムの不調に関する相談があった」③「不安・抑うつ」の相談があった」④「いじめの被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった」の順に多くなっている。

○不登校児童生徒について把握した事実から、家庭状況や本人の無気力不安が多く、福祉部局や医療との連携が重要。  
 ○本人や保護者の思いに寄り添い、信頼関係のもと支援を継続していくことが必要。  
 ○新規の不登校を防ぐために、未然防止や早期発見・早期対応の取組を組織全体で行っていくことが重要。

### 年間スケジュール

月	取組内容
4	・いじめ対策・不登校児童生徒支援プラン年間計画の作成・体制作り
5	・市、学校情報交換 ・SSW巡回訪問開始(年間)
6	・SC、SSW連絡会議 ・生徒指導担当者会議 ・教育相談コーディネーター研修(6月～7月)
7	・1学期意識調査 ・県いじめ・不登校調査 ・いじめ不登校対応研修
8	・生徒指導担当者会議
9	・長期休業明け対応
10	・いじめ対策・不登校児童生徒支援プラン見直し・改善
11	・市、学校情報交換
12	・2学期意識調査 ・いじめ・不登校調査
1	・長期休業明け対応 ・教育相談コーディネーター研修(1月～2月)
2	・いじめ対策・不登校児童生徒支援プラン総括 ・SC、SSW連絡会議 ・生徒指導担当者会議
3	・学年末意識調査分析 ・次年度いじめ・不登校対策プラン策定

### 未然防止

### 早期発見

### 組織的支援

魅力ある学校・学級づくり

年度当初の情報共有

・主体的・協働的な活動を通して行う「居場所づくり」絆づくりの取組(継続的に行う人間関係づくりプログラムの充実)  
 ・児童生徒が主体となった学校行事や児童会・生徒会活動の取組  
 ・みんな活躍(生徒指導の三機能)を意識した授業など

### 教職員間の情報共有

・管理職への報・連・相の徹底など  
 ・発達にかかわる要因

### 記録

・事実に基づいたWELLH  
 ・多方面からの情報収集  
 ・学校生活の状況、家庭環境の状況など

### ケース会議の実施

・児童生徒支援シートの作成  
 ・対応策や支援方針(役割分担)を決定  
 ・専門スタッフの参画による多面的・多角的な支援。

### 情報共有・蓄積

・定期的・臨時的ないじめ不登校対策会議の実施  
 ・状況、指導方針を丁寧に保護者に説明

### 支援評価

### 継続的支援

### 課題解決

生徒指導提要用を活用したOJTや研修の充実による、学級・学年経営力、児童生徒指導力の向上

中津市の不登校の状況や好事例について  
 ・定例校長会議、教育相談コーディネーター研修、スキルアップミニ研修等で各小・中学校に発信

不登校対策会議(学期に1回)  
 ・中津市の不登校の状況の情報共有  
 ・対策の検討

※学校支援会議(月1回)  
 ※市教委連絡票  
 ①月に累計3日以上欠席した児童生徒の状況調査(毎月)  
 ②学期初め2週間の長期欠席児童生徒の登校状況調査(每学期)  
 ③学期終わりの長期欠席児童生徒の欠席日数・欠席の様態・支援の状況等調査(每学期)

## 不登校支援の取組①

# 別室(登校支援ルーム)登校対応

(市内中学校5校)

### ○対応職員

・中学校5校には、登校支援員を配置。(1校には学習補助員を配置)

### ○支援の内容

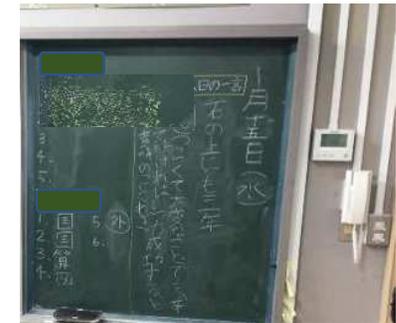
・自習(問題集やタブレット)を中心に行っている学校や、自習だけでなく授業も行っている学校など、学校によって支援の仕方は異なる。

### ○今年度の実績

	1 学期			2 学期		
	実利用人数 (教室復帰)			実利用人数 (教室復帰)		
	1 年生	2 年生	3 年生	1 年生	2 年生	3 年生
豊陽中	0 (0)	4 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)
緑ヶ丘中	4 (0)	5 (1)	8 (0)	4 (1)	8 (0)	10 (1)
中津中	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (1)
城北中	3 (1)	2 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (1)
東中津中	3 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)
<b>合計</b>	<b>10 (1)</b>	<b>11 (1)</b>	<b>16 (0)</b>	<b>12 (1)</b>	<b>13 (0)</b>	<b>20 (3)</b>



緑ヶ丘中学校の別室 (学習室)



大幡小学校のふれあい教室

## (大幡小学校)

### ○対応職員

・登校支援員の配置はないが、別室(ふれあい教室)に常時担当教員をあてて支援を行っている。

### ○支援の内容

・基本的には所属学級と同じ日課表での授業。(学習面で遅れをとることなく、エネルギーを高められるため教室に復帰しやすくなっている。)また、児童の様子を見て、少しずつ教室で授業を受けられるよう支援。

### ○今年度の成果

・昨年度3学期より支援していた児童が今年度10月より教室復帰。現在の利用は3人

# ふれあい学級(中津市教育支援センター)



中津市2301番地  
(金谷本町)  
※旧光明院

## 不登校支援の取組②

# ふれあい学級(中津市教育支援センター)



不登校状態や不登校傾向にある児童生徒について、教育相談、訪問相談・訪問支援、適応支援を主に行いながら、児童生徒や保護者、学校に対して、再登校や自立のための支援を行っている。

適応支援については、まず週1回1時間の個別支援(訪問支援)を行っている。スタッフとの信頼関係を築き、本人のニーズがあれば、集団支援へ移行。集団支援では、スポーツ活動、調理活動、創作活動、栽培活動、学習活動、野外活動など、さまざまな活動を行っている。

	月	火	水	木	金
10:00 10:10	朝のつどい	個別支援 (9:00~10:00)	朝のつどい マイプラタイム	個別支援 (9:00~10:00)	朝のつどい マイプラタイム
11:00 11:50 12:00	スポーツ活動	個別支援 (10:30~11:30)	ふれあいタイム (調理活動等)	個別支援 (10:30~11:30)	ふれあいタイム (野外活動等)
13:00	ランチタイム 昼休み		ランチタイム 昼休み		ランチタイム 昼休み
13:50 14:00	学習活動 創作活動等 帰りのつどい	個別支援 (13:00~14:00)	学習活動	訪問支援 (13:00~14:00)	学習活動等
	個別支援 (14:30~15:30)	個別支援 (14:30~15:30)	個別支援 (14:30~15:30)	訪問支援 (14:30~15:30)	個別支援 (14:30~15:30)
17:00	個別支援 (16:00~17:00)	個別支援 (16:00~17:00)	個別支援 (16:00~17:00)	訪問支援 (16:00~17:00)	個別支援 (16:00~17:00)

年度	小学校		中学校		合計	
	児童数	再登校数	生徒数	再登校数	児童生徒数	再登校数
H.29	2	2	12	7	14	9
H.30	2	2	14	8	16	10
R.1	4	3	11	6	15	9
R.2	6	3	14	8	20	11
R.3	6	5	15	7	21	12
R.4	6	1	17	9	23	10
R.5	8	4	11	4	19	8



## 令和5年度 就学支援と長期欠席者(不登校・その他)の関係

	長期欠席者数 (不登校・その他)	長期欠席者のうち就学 支援を受けている人数 (割合)
小学校	123	54 (43.9%)
中学校	152	31 (20.4%)
合 計	275	85 (30.9%)

(参考①)

R6年度・・・<小学校児童数>

4,463人中、就学支援を受けている児童数・割合 591人(13.2%)

<中学校生徒数>

2,269人中、就学支援を受けている生徒数・割合 368人(16.2%)

<小中学校合計>

6,732人中、就学支援を受けている児童生徒数・割合 959人(14.2%)

(参考②)

## ヤングケアラー調査実施(R6.7月)

ヤングケアラーの定義・概念に関する記述

<文部科学省・厚生労働省(両省のホームページより)>

法令上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。

### <県の実態調査結果(令和6年7月)と現時点の学校対応数>

	県実態調査結果				SSWがヤングケアラーとして対応している数(こども家庭センターと共有分)
	中津市		大分県		
	該当者	割合	該当者	割合	
小5・小6	246人	18.3%	2,681人	15.2% (6.0%)	小学校全体で <b>15</b> 人
中1～中3	143人	7.5%	1,265人	5.0% (3.8%)	中学校全体で <b>26</b> 人

※表中の括弧書きは、前回令和3年調査時

## 中津南高等学校耶馬溪校の振興対策「全国募集」について

### 【耶馬溪支所地域振興課】

#### 【耶馬溪校の現状について】

過去の5年間耶馬溪校の入学者数は、令和2年度以降、19名、25名、19名、13名、27名と推移しており、来年度の入学者数は、志願者数から14名程度と予測しています。

年度	定員	入学者数 (充足率)	下毛地域中学校 出身者数(割合)	耶馬溪中学校 3年生の人数
R 2年度	30人	19人(63.3%)	5人(26.3%)	33人
R 3年度	30人	25人(83.3%)	10人(40.0%)	17人
R 4年度	30人	19人(63.3%)	6人(30.0%)	18人
R 5年度	30人	13人(43.3%)	4人(30.8%)	14人
R 6年度	30人	27人(90.0%)	9人(33.3%)	18人
R 7年度	30人	14人(46.0%) <b>受験予定</b>	2人(14.0%)	11人

令和2年度に、中学3年生と保護者をターゲットとした、「生徒による学校CM作成」が県内メディアに取り上げられ、令和3年度は入学者が増加。

しかしながら… 令和4年度からは再び減少に転じ、令和5年度は**半数を下回る**。令和7年度も**半数を下回る見込み**。

- 考えられる要因は？
- ①地元（下毛地域）中学生の減少
  - ②大学進学に有利な他校への流出
  - ③通学が不便



**魅力UPが急務！  
全国募集の推進！**

#### 【全国募集の事業概要】

中津南高等学校耶馬溪校を核とした地域活性化を目的として、学校・地域・行政の橋渡し役となる「コーディネーター」の採用、そして全国から地方への高校留学を希望する学生の窓口となる「地域みらい留学」へ参画します。

そして、令和8年4月からの入学者受け入れに向け、大分県教育委員会、耶馬溪校、と3者で連携・協力しながら進めてまいります。

### 【令和6年度取り組んだ内容】

- ①通学費補助の拡大（年間の個人負担80,000円を55,000円に軽減）
- ②一般財団法人「地域魅力化プラットフォーム」が運営する、「コーディネーターの採用・配置」に参画し、合同説明会に参加
- ③市HP・プラットフォームHP・JOIN（移住・交流推進機構）にて募集
- ④大分県教育委員会高校教育課との協議

### 【今後の予定】

- ①R7.4.1 コーディネーター配置（R7.2末に内定予定）  
※地域おこし協力隊として3年間の任用
- ②一般財団法人「地域魅力化プラットフォーム」が運営する「地域みらい留学」へ参画  
※負担金（1,320千円）…大分県が費用負担予定
- ③住環境の整備・支援内容決定（予定）
- ④耶馬溪校の生徒全国募集開始（予定）
- ⑤R8.4.1 全国からの留学生徒の受け入れ開始（予定）

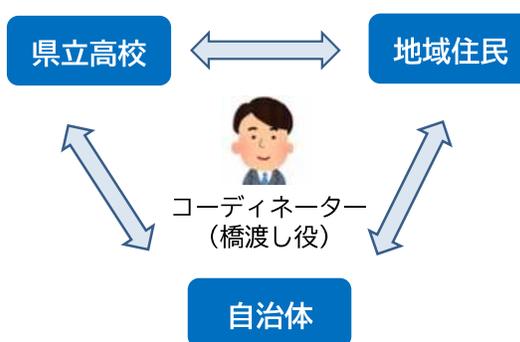
	高校教育課	耶馬溪校	中津市
魅力づくり等	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力化事業</li> <li>学科の在り方検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程編成（魅力ある学びづくり）</li> <li>学科の在り方検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある部活動の支援（指導者、練習場所等）</li> <li>就業の支援</li> </ul>
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京、関西県人会での広報</li> <li>広報番組への情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域みらい留学説明会</li> <li>フライヤー、LP作成</li> <li>見学（福岡）での広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域みらい留学説明会</li> <li>市HP、広報でのPR</li> <li>友好都市へ広報</li> </ul>
支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域みらい留学参画費</li> <li>広報に係る費用支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>住環境に係る支援</li> <li>地域みらい留学登録</li> <li>コーディネーターの費用</li> </ul>

### 【期待される効果】

学校・地域・行政の橋渡し役となる「コーディネーター」を配置することで、学校・地域・行政の関係性がさらに深まり、学校と地域が連携・協働した教育活動の継続性が期待できる。

全国募集の実現により、耶馬溪校に入学した地域外の生徒が耶馬溪での3年間の生活を通し地域に愛着を持ち、将来の移住定住に繋がることで、地域活性の好循環を生み出すことができる。

耶馬溪校の入学者増に繋がり、耶馬溪地域に賑わいをもたらすことができる。



～ 教育の力で、地域の未来をつくる ～